

意外な機能を使いこなして撮影上手になろう!

デジタルカメラやスマートフォンで写真を撮る時、撮影画面にはさまざまな機能アイコンが表示されています。でも、それぞれの役割や効果をすべて理解できていますか？今回は簡単な操作ひとつで“撮影上手”になれる、おすすめの機能について紹介します。

松井なおみさん

スタジオZui主宰。広告から雑誌、ホームページ、イベントなど幅広く撮影するフォトグラファー。女性ならではの感性を生かし、美容関係や自然な表情を引き出す人物撮影も得意とする。大の子ども好きで8歳の甥っ子にメロメロの毎日。



デジタルカメラやスマホの液晶モニターには、撮影時にたくさんアイコンが表示されますが、“すべてカメラにお任せ”でシャッターボタンを押している人が多いのではないのでしょうか？こうした手軽さはデジタルカメラやスマホでの撮影の大きな魅力ですが、表示アイコンの意味（機能）を理解して使いこなすと、失敗を防いだり、より素敵な写真を撮ることができます。

例えばピクチャーエフェクトは、コントラストや色の風合いなどを調整できる機能です。多くの人にとってはあまり気に留めたことがない機能だと思いますが、この設定を細かく切り替えることで、カメラ任せの写真とはイメージの違う個性的な一枚に仕上げることができます。被写体や構図を変えず、設定を組み合わせると、「レトロ風」や「絵画調」など、あれこれ試し撮りをすると面白いかもしれません。

また皆さんは、撮影した写真を確認した時に、「どうしても自分の目で見たものとは、異なる色合いになってしまおう」といった経験はありませんか？そんな場合はホワイトバランスを調整してみましょう。ホワイトバランスとは人間の目で見る「白色」をカメラに正しく再現させる機能で、正しく調整することで不自然に黄色がかったり、青っぽくなるのを防ぐことができます。カメラごとにホワイトバランスの

設定内容にも違いがありますが、一般的なもので覚えておくと便利なのが「蛍光灯」「太陽光」「曇り」の3つです。「太陽光」を基準として、「蛍光灯」を選択すればより青を強調した写真に、「曇り」を選べばより赤を強調した写真になり、写真に自分の“意図”を反映させることができます。

光が届かない室内や日陰など、シャッター速度が遅くなって手ぶれが起こりやすい暗い場所での撮影ミスを防ぐには、「ISO」の設定がポイント。「ISO」の数値を大きくすることで、シャッター速度をより高速に設定できるため手ぶれを防ぐことができ、活発に動き回るお子さまの瞬間を写真におさめやすくなります。撮影テクニックではありませんが、「4:3」「16:9」といった画像サイズや画質を示す数字の設定もお忘れなく。パソコンやスマホ画面で見るためだけなら数値を低く、プリントしてママ友にもプレゼントする場合は数値を高く、と目的によって使い分ければ「記録メディアの容量が足りずシャッターチャンスを逃してしまった！」なんて失敗もなくなりますよ!

